

浜研通信

福島県農業総合センター浜地域研究所 広報誌

この研究成果はいかが？！

ここでは、これまでに出した成果を季節に応じてお知らせします。

イチゴ促成栽培におけるパイプハウス被覆の空気膜二重構の効果！！

イチゴ促成栽培において、パイプハウスの外張内張の両方を空気膜二重構造にすると（図1）、生育、収量は慣行ハウス（外張、内張とも一重）とほぼ同等でありながら、暖房の燃料消費量を慣行ハウスの46%と大幅に削減でき、被覆資材代を含めても保温に関する費用は慣行ハウスを下回ります。

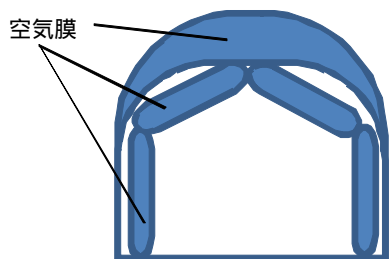


図1 外張、内張空気膜二重構造ハウス

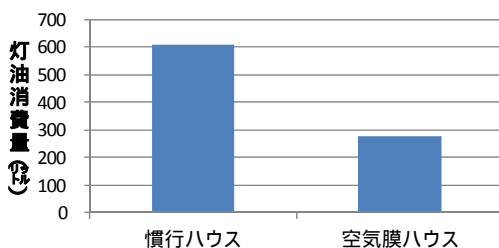


図2 ハウス被覆方法と灯油消費量(リットル/a)

また、パイプハウスの内張カーテンを空気膜二重構造にし、その空気層の内部に地下水を流し、夜間の保温性を高めることにより（図3）、外張、内張とも一重の慣行パイプハウス内気温が氷点下となる厳寒期でも、加温無しで最低気温9℃以上を保つことができます。

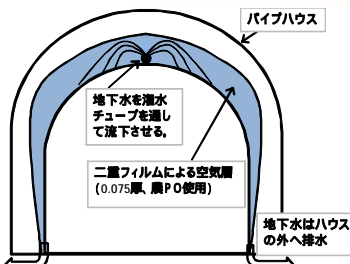


図3 ウォーターカーテン+空気膜内張図

塩害調査報告

東北地方太平洋沖地震に伴う津波の被害を受けた農地の、
土壌調査の結果を報告します。

8月下旬時点の調査結果は図のとおりでした。なお、土壌塩分濃度(%/乾土当たり) $= (EC - 0.0434) / 17.755 \times 6$ として算出しています。

4月上旬に比べ、土砂の塩分濃度は降雨などにより低下傾向でした。しかし水稲の場合は土壌塩分濃度が0.2%以上で減収が生じるため、大半の水田では除塩が必要な状態でした。

土壌 pH は、相馬市大曲の土砂流入水田で低下傾向でした。これは、流入した松川浦の底の泥に含まれる硫酸根によるものと考えられます。

今後も引き続き、調査を行っていきます。

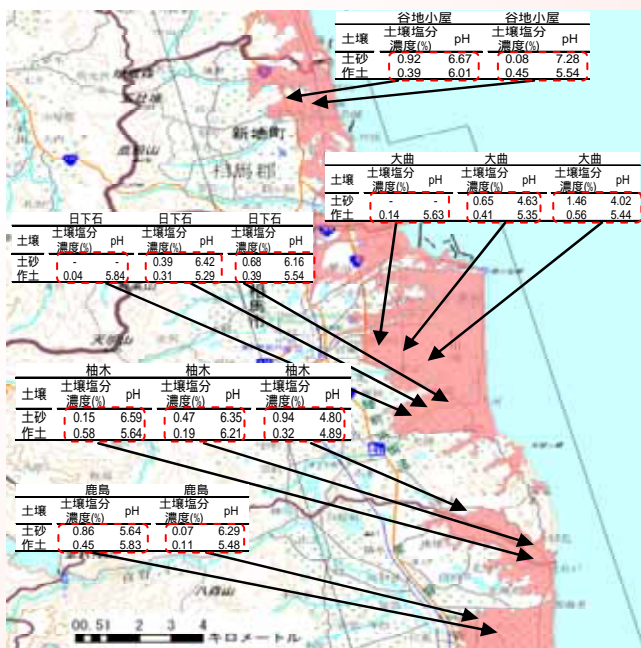


図 調査地点と8月下旬の土壌塩分濃度及びpH

作物の生育状況 稲、麦、大豆などの主要作物の生育に関して概況をお知らせします。 (詳しくはHPへ!!)

< 水稻の作況試験 >

5/10移植では、成熟期はひとめぼれは9/12、コシヒカリは9/26で、平年より4~5日早まりました。穂数は、平年と比較し、ひとめぼれは多く、コシヒカリはやや多いです。ひとめぼれの着粒数は、1穂当たりは平年より少なく、m²当たりで平年よりやや多い見込み。コシヒカリは、1穂当たりで平年よりやや多く、m²当たりで平年より多い見込みです。

< 大豆の作況試験 >

6/5、6/22、7/5にタチナガハを播種し、調査を行っています。6/5播種、7/5播種ではまとまった降雨がなかったため、出芽が3日程度遅れましたが、その後草丈、主茎長、主茎節数など、平年を上回る生育となりました。開花期は2日程度早い状況です。

ただいま試験中

平成23年度より、新規試験課題がスタートしました。
ここでは、どういった試験を行っているのか紹介します。

トルコギキョウの10~11月出荷に向けた抑制栽培は、秋冬期に温暖多日照な浜通りに適した作型です。しかし、夏場の高温条件を経るために、花芽の形成が早まり過ぎてボリューム不足になりやすいという問題があります。一方で、近年は光環境を制御することで、植物の生育が変わることが、いくつかの品目で明らかになってきています。

そこで夏場の遮光ネットによる遮光処理に、赤色光の割合を多くする資材を用いたボリューム確保及び品質向上技術の確立を目指しています。



図1 遮光中のハウス



図2 ハウス内部の状態

ワンショット 所内での作業内容を紹介します。



収量調査のために、刈り取った稲の籾を処理しています。



アスパラガス伏せ込み試験の準備で、地上部を刈り取り中です。

お知らせ

第6回農業総合センターまつりが、福島県農業総合センターにて10月29日(土)~30日(日)10時~15時に開催されます。今年度は規模を縮小しての屋内開催となります。また、放射線に関するセミナーも開催されます。

編集・発行 福島県農業総合センター浜地域研究所

〒979-2542 相馬市成田字五郎右エ門橋100

TEL (0244)35-2633 FAX(0244)35-0319

ホームページ http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/bu_hama/hama_index.htm

